

シイ

シイ（椎）は、[ブナ科](#)クリ亜科 (Castaneoideae) シイ属 (*Castanopsis*) の樹木の総称である、シイ属は主にアジアに約 100 種類が分布、日本はこの属の分布北限となり 2 種が自生する。カシ類の多くが風媒花で花びら等を持たないのと同じ構造であるが、シイの雄花は枝先に密生し全体が黄色に明るく色づく虫媒花で近縁の[クリ](#)属の雄花に似た生臭い香りが強く昆虫がよく集まる。果実の椎の実は、[縄文時代](#)には重要な食料であったといわれている。近年では子供のおやつに用いられた。現在でも[博多の放生会](#)や[八幡（北九州市）の起業祭](#)といったお祭りでは炒った椎の実が夜店で売られている。

生でも食べられるが、軽く煎って食べることが多い。紙袋に入れて[電子レンジ](#)で加熱するのもよい。食べるにあたってはまず水で洗い、浮いてきた虫食いの実を捨ててから用いる。

材は建材の他、[シイタケ](#)栽培用のホダ木として用いられる



カシ

カシ（櫟、樅、櫛）とは、[ブナ科](#)の常緑高木の一群の総称である。狭義にはコナラ属 *Quercus* 中の常緑性の種をカシと呼ぶが、同じブナ科で[マテバシイ属](#)の[シリブカガシ](#)もカシと呼ばれ、[シイ属](#) *Castanopsis* も別名でクリガシ属と呼ばれる。

漢字で木偏に堅と書くことから判るように材質は非常に堅い。また粘りがあり強度も高く耐久性に優れている。その特性から道具類、建築用材などに使われる。ただし、加工がしにくい、乾燥しにくいといった難点がある。民家の垣根に植樹される主要な樹木の一つでもある。常緑樹であるために[防風林](#)としての機能も果たした。また櫟の生葉・生木は他の樹木と比較した場合に燃え難いこともあり、隣家火災の際には延焼を防止する目的も持ち合わせていた。

建築では[欄間](#)、[敷居](#)に使われる。[鉄道](#)の[枕木](#)。初期の木製[レール](#)。[橋](#)。[ハンマー](#)、[スコップ](#)、[鍬](#)、[杵](#)などの道具類の柄。[山車](#)のかじ取りをするためのテコ。[木刀](#)、[ヌンチャク](#)などの[武道用具](#)。[和太鼓](#)の[桴](#)（ばち）。その他、[ステッキ](#)、[棺桶](#)など。



クヌギ

クヌギ (*Quercus acutissima*) は、[ブナ科コナラ属](#)の[落葉高木](#)。古名はつるばみ^[1]。漢字では苗字などを含め、[櫟](#)、[栲](#)、[橡](#)、[栲](#)、[功刀](#)などと表記する。

クヌギの語源は国木（くにき）または食之木（くのき）からという説がある^[2]。

クヌギは幹の一部から[樹液](#)がしみ出ていることがある。[カブトムシ](#)や[クワガタ](#)などの[甲虫類](#)や[チヨウ](#)、[オオスズメバチ](#)などの昆虫が樹液を求めて集まる。樹液は以前は[シロスジカミキリ](#)が産卵のために傷つけた所から沁み出すことが多いとされ、現在もほとんどの一般向け書籍でそう書かれていることが多いが、近年の研究で主として[ボクトウガ](#)の幼虫が材に穿孔した孔の出入り口周辺を常に加工し続けることで永続的に樹液を滲出させ、集まる[アブ](#)や[ガ](#)のような軟弱な[昆虫](#)、[ダニ](#)などを[捕食](#)していることが明らかになった。

材質は硬く、[建築材](#)や[器具材](#)、[車両](#)、[船舶](#)に使われるほか、薪や[椎茸](#)栽培の[楢木](#)（ほだぎ）として用いられる。



コナラ

コナラ（小櫨、学名：*Quercus serrata*）は**ブナ目ブナ科コナラ属**の落葉広葉樹。別名ハウソ。**北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国**に分布する。日本では**雑木林**に多く見られる。葉は長楕円形で縁に尖った部分がある。**花**は4 - 5月、若葉が広がる時に咲き、**秋に実（ドングリ）**が熟す。**樹皮**は**灰色**で、縦に裂け目が出る。材は**木炭**の原料や、**シイタケ**の原木に使われる。多くの**菌類**と**菌根**を作るため、コナラ林には多くの菌根性の**きのこ**が出現する。**関東**以西では**クヌギ**と並んで人里の薪炭林に植栽され、重要な燃料源であったが、1960年頃以降、燃料の需要の主力が木材から化石燃料へと変化したことで、薪炭林としての位置づけは失われた。また、かつて**東北地方**の山村では、コナラのドングリはミズナラのドングリと並んで重要な食料であった。

